

寺人寺



171号



【近江神宮 楼門】

第38代天智天皇（大化の改新で有名な中大兄皇子）を祭神とし、1940年（昭和15年）に建立された。社殿は「近江造」と呼ばれ独特の物とされる。漫画「ちはやふる」で広く世間に知られ、毎年一月に競技かるたの日本一を競う「かるた名人位・クイーン位決定戦」が行われ人気がある。

廣谷 恭三（農業部門）【巻末参照】

目 次

[項 目]	[執筆者]	[頁]
表 紙 近江神宮 楼門	廣谷恭三	1
巻頭言 模索・チャレンジの連続は今年も続く	河野千代	3
近畿本部/支部 報告・予告		
理事会だより (2019-No. 4)	河野千代	4
2019 年度第 4 回役員会議事録 (案)	田岡直規	7
わたしのコンピテンシー発表会	黒田憲二	9
2020 年度新春講演会 & 賀詞交歓会のご案内	事務局	11
第 13 回防災対策セミナー (神戸防災のつどい 2020) のご案内	事務局	12
第 5 回近畿本部協賛団体特別セミナーのご案内	事務局	13
第 39 回地域産学官と技術士との合同セミナー (京都) の開催案内	綾木光弘	14
近畿本部倫理シンポジウム 2020 のご案内	事務局	15
部会/活動グループ 報告・予告		
近畿本部 上下水道部会	岩堀 博	16
近畿本部 関西食品技術士センター	水道裕久・戸口昌俊	18
近畿本部 技術士業務研究会	三木茂男	22
近畿本部 応用理学部会	谷垣勝久	24
近畿本部 ISO 研究会	竹内修治・村上禮三	26
近畿本部 環境研究会	西島信一・鈴木秀男	28
近畿本部 情報工学部会	山口敦史	31
近畿本部 経営工学部会	荒井一彦	32
近畿本部 電気電子部会	蘇鉄本稔	35
近畿本部 機械システム部会	村上禮三	38
近畿本部 繊維部会・化学部会	城山義見・和田信之	43
編集室だより		
みなさんの原稿大募集 (特集「スポーツと技術」)	「きんき」編集室	21
1-2 月行事予定	「きんき」編集室	44
きんきがフルカラーになりました！！	「きんき」編集室	44
編集後記	木藤 茂	44

模索・チャレンジの連続は今年も続く

日本技術士会理事／近畿本部副本部長 河野 千代

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては心新たに輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

理事を拝命して早くも3回目の新年となりました。就任後約2年間は会の外に向けた活動に注力しつつ、部会・研究会への参加を通じて会員皆様との交流を図り、当会の強みや弱み、課題を抽出して参りました。改めて、高度な技術とノウハウを持つPE集団であることを実感すると共に、他の団体に無い「多部門他産業集合体」の強みを活かした外部に向けた活動を展開することで、今までと違った産業界での活躍も可能であると感じました。そのためには、部門や産業界の壁を取り払い、一致団結して初めてのことに挑む仲間が必要でした。

また理事として、全国の活動や会計報告、委員会での議論と成果をしっかりと見て参りましたが、各地域から寄せられた要望の殆どは「前例踏襲からの脱皮」を恐れなければ地域本部内で解決可能であると確信した次第です。全国の地域選出理事が集まる懇談会、近畿本部幹事会でも地域本部内の予算編成とその執行についてお伝えしたところですが、公益社団法人である当会は、黒字決算で繰越金を毎年積み上げる必要はありません。公益社団法人としての活動に有効に使うべきであり、規程の範囲内でその用途は地域本部内で決めることが可能です。前例踏襲である必要はありません。また、自組織で発生した課題であれば、まずは自組織に問題がないかを見極め、ある程度の権限委譲を受けた組織として、権限の範囲内で問題を解決できる組織でなければなりません。

現在近畿本部では、幹事皆様のご理解・ご協力により課題解決に向けた手引きの改定、予算編成の見直しや設備改善など、より活動のしやすい環境づくりに順次取り組んでいるところです。

その一方で、約3年前から複数部門の有志と共に技術士活躍の場拡大活動の一環として「建設産業に他部門の技術士をつなぐ活動」を進めて参りました。建設産業は土木・建築工学だけではなく情報、機械、化学、繊維、電気電子など様々な専門技術を駆使してものづくりをする産業です。他産業での活用技術やノウハウを建設産業につなぎ、新たな産業界での技術士貢献の場拡大を目的に始めた活動です。昨年には京都大学大学院教授を委員会アドバイザーにお迎えし、近畿本部地域連携強化委員会として気持ち新たに再始動いたしました。活動当初の国土交通省近畿地方整備局・日本技術士会近畿本部多部門技術士との意見交換会では、建設部門以外の技術士を知り、国土交通省の取組を知るための勉強会から始め、昨年度は近畿地方整備局管内のニーズに対するシーズ技術を技術士が紹介し、今年度には産学官の代表者で組織された「近畿地方整備局新技術活用評価会議（NETIS 登録された新技術の活用について評価する会議）への技術士参画の試行が叶いました。評価対象技術について、複数部門の技術士が気付いた点を技術評価の判断材料の一つとして近畿地方整備局に提出する仕組みです。当活動をきっかけに、更に次のステージへと技術士貢献の場を広げるべく産学官との信頼関係構築の活動を推し進め、技術士の認知度向上・地位向上につなげて参る所存です。間違いなく本年も、模索・チャレンジの連続となりそうです。

最後になりましたが、多部門多産業集合体の日本技術士会に所属して、それぞれかけがえのない仲間たちと巡り会うことができました。応援して下さった数多くの皆様に心から感謝の気持ちで一杯です。本年も皆様にとって益々よい一年となりますようお祈り申し上げます。